

令和6年度 東京都立日野台高等学校 学校経営報告

令和6年度の取組と自己評価

新学習指導要領が全学年で展開される年度を迎え、進学指導推進校、英語教育研究推進校、海外学校間交流校、理数研究校、体育健康教育推進校として、生徒の希望進路実現に向けた質の高い授業・教育活動に取り組み、生徒に「挑む心（挑戦心）」を醸成し、「考えて主体的に実行する」態度を育成することができた。

教育活動においては、対面による、よりリアルなコロナ前に近い形の教育活動をすべてにおいて推進し、実践した。

ス ク ー ル ・ ポ リ シー	目指す学校像 (スクール・ミッション) 【期待される社会的役割等】	「叡知・情操・健康」を教育目標とし、文武両道を通じて、生徒自らが計画を立て、自らを律して最後まで粘り強く頑張り通す、挑戦心と実行力を育成します。
	グラデュエーション・ポリシー 【高等学校学習指導要領で 育成を目指す資質・能力】	教育活動において、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力、表現力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す工夫した教育の充実に努める。
	カリキュラム・ポリシー 【教育課程の編成及び実施】	知力・徳力・体力のバランスの取れた教育の充実に努める。具体的には次の5つの資質・能力「①基礎・基本の定着 ②自律的な学び ③探究する態度 ④文武両道 ⑤規範意識」を育成し「挑戦する心と実行する態度を持つ生徒」に育てる。 これによって、より高い進路目標の実現に向け、学習と学校行事・部活動を、高い次元で両立できる文武両道を目指す。学習においては、自分の目標とする難関大学などを目指す。
	アドミッション・ポリシー 【本校の期待する生徒の姿】	・意欲的に学習に取り組み、教科の成績が優れている生徒 ・難関大学進学等の目的意識をもち、入学後もその実現に向け継続的に努力できる生徒 ・部活動、生徒会活動、奉仕活動等のいずれかに熱心に参加し、入学後も継続的な活動ができる生徒 ・社会生活を円滑に送るためのマナーを身に付けており、中学校3年間の出席状況が良好な生徒

(1)教育活動の目標と方策

①学習指導

目 標	教育活動への取組と自己評価 (数値目標等の達成度合い)	次年度以降の課題と 対応策
・大学入学共通テスト、国公立大二次試験、難関私立大入試の得点力向上	・教科や進路指導部で、共通テスト、二次、難関大の入試問題を幅広く深く分析して教員間で共有し、授業で思考力・判断力・表現力を問う発問をし、定期考査では論理的思考力・表現力を高めるため、記述・論述問題を出題した。	・共通テスト、二次、難関大入試問題を深く分析し、教科内で共有する。 ・教科主任会で、情報の共有化を図る。 ・定期考査での記述問題を出題していく。
・学力スタンダードを活用した教科指導	・教科会で、授業進度を調整し、教材の共有化を図り、定期考査の共通化を柔軟に進めた。 ・変化に対応し、学校として一貫性のある授業計画をさらに進めた。	・学年ごとではない、学校として一貫性のある授業を継続する。
・学力向上と定着	・自宅学習定着のため、予習・復習、週末課題を課した。 ・予習を前提とした授業を行った。 ・教科、学年、部活顧問が連携し、学習時間等の確保に努めた。 ・自習室、図書室、学習コーナー等を活用し、自主的に学習する習慣を身に付けさせた。感染症対策として、居残り学習は午後7時までとした。 ・夏期・冬期・春期講習、普段の補習に取り組んだ。	・共通テスト、国公立二次、難関私立大の出題傾向を踏まえ、希望進路実現に向けた取り組みを実践していく。委員会を中心に新たな学習コンテンツや教材をさらに研究し、研修会等

	・共通テスト、国公立二次、難関私大の出題傾向を踏まえ、新たな学習教材、学習方法を研究・活用した。 ・ICTを活用した授業の推進に向け、一人1台端末の活用の促進を図り、ロイロノート等を活用した授業の工夫・効率化を進めた。	・進学指導推進校として、一人1台端末を活用した質の高い授業を展開できるようにしていく。
・授業改善を推進 考える授業を展開	・授業での深い問いかけ、考えさせる発問、話し合い活動等で、主体的・対話的な授業に取り組んだ。話し合い活動等は、積極的に可能な範囲で行った。 ・教員相互の授業参観、研究授業、授業公開を行い、教科横断型の授業を試行した。また、進学指導推進校としての授業を公開した。 ・1時間ごとの授業のねらいを明確にし、生徒にとって見通しのある授業、考えさせる授業に取り組んだ。 ・総合的な探究の時間は、人間と社会の趣旨を共有して取り組んだ。総合的な探究の時間では、SDGs等を基本コンセプトに、日野市・青年会議所等とも連携し、生徒が成果をクラス、学年で発表した。	・授業での深い問いかけ、話し合い活動等で、主体的・対話的な授業に取り組む。 ・普段からの相互の授業参観、他校（進学指導重点校等）の授業への参加にも取り組む。 ・総合的な探究の時間等の趣旨を共有し、将来の在り方、生き方につながる取組を行う。
・授業時数確保	・すべての授業でチャイム始業を徹底した。 ・土曜授業は年20回行い、学習、部活、行事を充実させた。	・土曜授業は年20回行い、学習、部活、行事を充実させる。
・充実した学校図書館教育	・推薦図書紹介、ブックカバーチャレンジ、図書館日より、SDGsに関する選書などに取り組んだ。計画的・継続的な読書活動をすすめた。 ・生徒図書委員会を活用した絵本読み聞かせ（ブックサンタ）等の取組を推進した。	・計画的・継続的な読書活動をすすめる。 ・図書館専門員を積極的に活用し、読書活動を向上させる。

②進路指導

目 標	教育活動への取組と自己評価 (数値目標等の達成度合い)	次年度以降の課題と 対応策
・進路指導の充実	・進路指導部と学年が連携し、年間を通し学年ごと適時様々な説明会を開き、キャリア教育の充実を図った。 ・キャリア教育を通し、生き方、在り方等を考えさせた。 ・外部人材を、自習支援、帰国生指導、図書館居残り学習等で活用し、個々の生徒に応じた指導を実践した。	・キャリア教育を通し、生き方、在り方等を考えさせ、人としての成長につなげる。 ・外部人材を自学自習に活用する。
・組織的な進路指導	・進路指導部が進路データを一元管理し、進路指導部と学年・各教科が連携した指導を行った。 ・進路実現のため、ケース会議、模擬試験分析会、進路行事等の充実を図り、進路指導情報を共有した。 ・面接指導（二者及び三者）の充実を図った。 ・「3年間の進路指導の流れ」・「3年間面談例」を踏まえ、面接指導（二者及び三者）の充実を図った。 ・保護者対象の進路学習会の充実を図った。 ・ケース会議、模擬試験分析会、進路行事等を通して、進路指導の情報を共有し、全教員で生徒の進路支援に取り組んだ。 ・教科会・教科主任会の活性化を図り、教科での共通テスト分析や模試分析を積極的に行い、学力向上を補完し、進学対策を推進した。	・ケース会議、模擬試験分析会、進路行事等を通して、進路情報を共有し、全教員で生徒の進路支援の充実をさらに進める。 ・学年・進路指導部を中心とした三者面談をより充実する。
・進路自己決定支援	・進学指導推進校として、高い目標をもたせ、最後まであきらめさせない進路指導を行った。進路通信「挑戦者たちへ」を発行し、学年集会、保護者会、学校説明会、さくら連絡網等を活用して、情報を提	・模擬試験の振り返りを学年集会等で行い、進学に必要な力を身に付けさせる。

	供し、国公立大、難関大等を目指させた。 ・模擬試験の振り返りを学年集会等で行い、課題を全員で共有させ、進学に必要な力を身に付けさせた。 ・自主的な学習教材として、1・2年生のクラッシーの活用を推奨し、希望大学進学実現への手立てとした	
--	--	--

③生活指導

目 標	教育活動への取り組みと自己評価 (数値目標等の達成度合い)	次年度以降の課題と 対応策
・基本的な生活習慣 確立	・挨拶する、時間を守る、制服を正しく着用する等の基本的な生活習慣の指導を行った。ホームルームにおける生活指導を充実した。 ・「日野台生活スタンダード」を定着させた。特に、「地域に愛される」取組を行い、地域や社会に貢献する意識を育んだ。 ・下校時間を守らせ、勉強・部活・学校行事の切り替えを日常的に指導した。 ・登下校の交通マナー、盗難防止の指導を行った。 ・SNS日野台ルールの徹底に取り組んだ。スマホをオンライン学習、健康観察等に有効活用するよう指導した。	・服装を正しく着用する等の指導に取り組む。 ・日野台生活スタンダードで提唱する「地域に愛される」取組を行い、地域や社会に貢献する意識を育む。 ・交通マナーの徹底に取り組む。 ・自転車通学者へのヘルメットの着用の推進を強化する。
・生徒の健全育成	・あらゆる機会をとらえ、生命の尊重と自己肯定感を高めさせ、信頼できる人間関係をつくり、いじめや体罰の根絶に取り組んだ。学校生活や友人に関するアンケートを活用した。 ・「日野台生活スタンダード」で提唱する「思いやり」の心を育んだ。 ・総合的な探究の時間、人間と社会、様々な地域交流活動を通し、地域、社会と関わり、自己肯定感、キャリア意識を高めた。 ・セーフティ教室等を実施した。 ・ボランティア活動を推進し、地域清掃等の取組を部活動を中心に実践した。	・「日野台生活スタンダード」で提唱する「思いやり」の心を育む。 ・総合的な探究の時間、人間と社会、様々な地域交流活動を通し、地域や社会と関わり、自己肯定感、キャリア意識を高める。
・校内美化	・清掃活動を充実させ、ゴミの分別を日常的に行い、教室内や廊下などの美化に日常的に取り組んだ。 ・感染症対策として、校内の喚起に取り組んだ。また、様々な感染症対策に取り組んだ。	・様々な感染症への対策は、流行の兆しを見極めながら対策を講じて、取り組む。

④広報活動

目 標	教育活動への取り組みと自己評価 (数値目標等の達成度合い)	次年度以降の課題と 対応策
・組織的な学校PR 活動	・全校体制で広報活動を展開した。 ・「学校運営に関するガイドライン」にしたがって感染症対策に気を使いながら、本校に入学を希望する中学生・保護者にできる限り対面でのリアルな学校説明会等の機会を用意した。 ・授業公開を年4回実施した。 ・学校案内・ポスターの充実を図り、分かりやすく丁寧な説明を行った。 ・海外帰国生徒対応を含めホームページを適切に管理し、最新の学校情報の発信につとめ、適宜更新した。 ・可能な範囲で近隣中学校や進学塾での広報活動を行った。 ・PTAとの連携を充実させ、PTAと協力しながらの報活動を展開した。	・本校の特色を、入学希望の中学生とその保護者や、都民に知っていただくため、対面でのリアルな学校説明会等を行う。 ・ホームページにより、継続して内容を随時更新し、充実させ、一層の情報発信を行う。

⑤特別活動・部活動

目 標	教育活動への取り組みと自己評価	次年度以降の課題と
-----	-----------------	-----------

	(数値目標等の達成度合い)	対応策
・企画力や運営力を育成	・合唱祭や体育祭、常磐樹祭(文化祭)等の学校行事を充実させ、自主性・創造性・協調性を伸長させる支援を行った。 ・感染症対策等を取りながら、可能な範囲で、通常に近い形での行事を行った。これまで本校で培ってきた伝統行事が引き継がれるよう工夫して取り組んだ。	・可能な範囲で、通常に近い形の行事運営を行う。感染症以前に本校で行ってきた伝統行事が引き継がれるよう取り組む。
・体力の向上	・高いレベルの文武両道を目指し、部活動加入を推奨した。感染症対策を取りながら、充実した活動が行われるようにした。部活動で、地域、近隣小中学校、高校等との連携を積極的に図った。	・運動部・文化部共に、大会への参加を目指し、高いレベルでの文武両道の実現に向け、日常の活動を充実させる。
・安全指導の実施	・様々な活動で、事故や怪我の防止・対応に取り組んだ。 ・新入生への安全指導の徹底を図った。 ・部活動など様々な場面で、安全・安心な学校づくりに取り組んだ。	・登下校及び部活動など様々な場面で、事故の未然防止に配慮し、安全・安心な学校づくりに取り組む。
・理数研究校の推進	・理数研究校として生物部の活動活性化を図った。	・研究の成果を部活動の活性化につなげていく。

⑥ 環境・健康・安全

目 標	教育活動への取り組みと自己評価 (数値目標等の達成度合い)	次年度以降の課題と 対応策
・心と身体の健康づくり	・生徒の心身の状況を共有し、適切な指導に取り組み、生徒理解のための研修に取り組んだ。 ・スクールカウンセラーと連携し、教育相談の充実に取り組んだ。保健部を中心に相談日時を調整した。 ・感染症への対応として、東京都の通知に基づき、感染状況に応じた取組を行った。感染症が5類へ移行されるまでの間は、毎朝、教員がサーモでの体温測定に取り組んだ。また、校内での様々な感染症防止の啓発にも努めた。	・生徒情報を様々な方法で共有し指導に役立てる。 ・生徒会、部活動、委員会を活用した啓発活動等への取組を推進する。
・省エネ推進	・節電、節水、CO₂削減など、環境保全や省エネルギーに努めた。 ・省エネを意識した取り組みを行った。	・日常的に省エネを意識した取り組みを行う。
・ライフ・ワーク・バランスを推進	・学校における働き方改革推進プランに基づき、部活動指導員等を活用した。 ・学校閉庁日は、学校専用携帯電話等を活用した。 ・休暇取得促進ウィーク、定時退庁ウィーク等を啓発した。 ・男性の育児取得を推奨した。	・休暇取得促進ウィーク、定時退庁ウィークを活用する。 ・本校が使用している「さくら連絡網」を継続的に有効に活用する。

⑦経営企画室

目 標	教育活動への取り組みと自己評価 (数値目標等の達成度合い)	次年度以降の課題と 対応策
・積極的な学校経営参画	・学校経営支援センターとの連携を強化した。 ・予算の適正執行・適正管理に努めた。 ・一般需用費のセンター割合を高める取組をした。	・予算編成指針に基づき、在庫管理を徹底し、無駄を省き、真に必要な予算の編成・適正執行管理に努める。
・学習環境の維持	・施設設備の情報収集・点検・対応を行った。 ・教室換気のための冷暖房管理に留意した。 ・学校用務専門員との連携を図り、環境整備に努めた。	・施設設備の情報収集・点検・対応を行う。 ・教室換気のための冷暖房管理に留意する。 ・学校用務専門員との連

		携を図り、環境整備に努めいく。
--	--	-----------------

⑧特色ある教育活動

目 標	教育活動への取り組みと自己評価 (数値目標等の達成度合い)	次年度以降の課題と 対応策
・新学習指導要領に 応じた教育課程の 実施	・本校グランドデザインやカリキュラム・ポリシーに基づき、新学習指導要領を実施し、大学入学共通テスト、難関私大等の受験科目等に対応した教育課程を実施した。 ・教科会を充実させ、カリキュラム・マネジメントの実践に取り組んだ。	・観点別評価への対応については、今後も教科での対応が必要である。
・主権者教育や消費 者教育を充実	・公民科授業やHRで主権者教育の充実、家庭科授業やHRで消費者教育の充実を図った。 ・東京都選挙管理委員会・日野市選挙管理委員会と連携し、選挙関連の講演会・体験学習を実施した。	・選挙管理委員会とも連携して取り組む。
・グローバル化の進 展に向けた海外学 校間交流の推進	・海外学校間交流や国際理解教育講演会は可能な限り取り組んだ。 ・海外短期交流として、希望生徒を中心に夏季休業中、海外語学研修旅行（海外研修ツアー）を推進し、実施した。	・夏季休業中に交流等を目的として、ガイドラインに基づき、海外研修旅行を現地にて行う。
・グローバル化の進 展に向けた英語教 育を推進	・英語教育研究推進校として、英語力の向上に努め、4技能（聞く、話す、読む、書く）の伸長を図った。 ・JETを活用した放課後部活動の充実を図った。 ・英語外部検定を英語力向上、大学受験での活用につなげた。 ・日常の教育活動で海外帰国生の存在を活かす活動を行った。	・英語科を中心とした英語外部検定受験の啓発、英語教育研究推進校として英語力の向上に努める。
・学校2020レガシー 教育の推進	・共生・共助社会の実現に必要な「ボランティアマインド」「豊かな国際感覚」の育成など、学校2020レガシー教育に取り組んだ。	・生徒の心を揺るがすような講師を招聘し、意識の醸成に取り組む。
・日本の伝統文化教 育の推進	・日本の伝統文化の良さを理解し発信できる生徒、互いの文化を尊重した交流ができる生徒の育成を図った。 ・全学年で日本の伝統芸能鑑賞教室を実施した。	・1学年で、日本の伝統芸能鑑賞教室に取り組む。
・アクティブラーニ ングの推進	・各教科において3つの学力を確実に伸長させ、主体的・対話的な学びの実現に取り組んだ。 ・深い対話があり、考えさせる授業を行った。	・主体的・対話的な深い学びがあり、考えさせる授業の実践、授業内での一人1台端末活用を推進する。
・地域等と連携した 防災教育推進	・町会、日野市等と連携し、避難所設営等共助の防災訓練に取り組んだ。 ・防災訓練と合わせ年計4回、火災・震災等を踏まえた避難訓練を行った。	・町会、日野市、社会福祉協議会、日野市立大坂上中学校等と連携し、防災訓練に取り組む。
・学校評価の一層の 活用	・学校評価をより学校経営に反映させ、地域社会との連携を深め、開かれた学校づくりの推進に努めた。学校評価アンケートを学校経営に生かした。	・学校評価アンケートを学校経営に生かす。
・オンライン教育の 充実	・一人1台端末を活用し、課題設定力、仮説を立てる力、論理的に説明する力、明確な結論を導き表現する力を育成した。 ・適宜ICTを活用し、オンデマンド、ライブ配信を行い、授業、行事、部活動など様々な場面で活用する方法を研究し、実践した。BYOD(Bring Your Own Device)、CYOD(Choose Your Own Device)の実践に取り組んだ。	・Teams、Classi、ロイロノート等の活用を推進し、校内研修等を継続する。
・高校DX化推進事業 への対応	・文科省の事業の申請受理確定に伴い、3～5年後のデジタル化の推進に向け、教育課程の見直しやDX化の充実を図った。	・購入した物品等の継続的な管理と新教育課程の検証を継続する。

(2) 重点目標への取り組みと自己評価

重点目標	取り組みと自己評価	数値データ ※[]内は前年度
難関大学合格実績等	大学入学共通テスト出願者300名以上、5教科7科目の受験者150名以上となるよう、生徒を励まし、最後まで諦めさせない指導を継続した（今年度125名）。 現役国公立大学合格100名以上（うち難関国公立大5名以上）、早慶上智理科大60名以上、GMARCH大300名以上の合格者数を目指した指導を行った。 国公立大学の合格者は2年間80名越えの実績を残してきたが、今年度は例年並みの60名強の人数にとどまった。	<u>進路実績</u> ・共通テスト出願者数 304名（310名中）[311名] ・国公立大学合格者数(大学校含む) 68名 [84名] ・東京大学浪人生合格者数 0名 [1名] ・難関国公立大学合格者数 4名 [4名] ・早慶上智理科大延合格者数 45名 [56名] ・GMARCH延合格者数 278名 [274名] ・日東駒専延合格者数 195名 [195名] ・成成明武現役合格者数 82名 [51名] ・進路決定率 92% [90%] ・就職者数→0名 浪人する生徒が昨年度は例年より少し増加したが、今年度は例年並みに戻った（26名）。地方の国公立大学への進学者が減少した。
学校生活の充実度	学校評価アンケートの全項目で肯定的回答が80%を越えるよう、分掌・学年・教科・部活動顧問が連携して学校生活の充実に取り組んだ。 感染症対策をとり、可能な限りリアルルの教育活動を推進し、かつオンラインも活用して登校不可の生徒に対して配信授業に取り組んだ。	<u>学校評価アンケート結果</u> ・学校生活は充実 94% [90%] ・教員は授業改革に努めている 92% [78%] ・授業に全体的に満足 84% [80%] ・入学してよかった（1年生のみ） 94% [95%] ※数値は全学年平均
家庭学習の時間	1、2年生で、家庭学習2時間以上の生徒が50%以上となるよう、課題の提示、隙間時間の有効活用、居残り学習等を促した。	<u>家庭学習 平日2時間以上</u> (7月) (11月) ・1年 平日 49% → 34% 休日 64% → 55% ・2年 平日 33% → 29% 休日 47% → 46%
学校PR活動	オープンスクール、学校説明会等を広報し、参加者数4000名以上（文化祭入場者数含む）、入学者選抜一次募集最終応募倍率1.5倍以上となるように努めた。 感染症対策の動向を見つつ、効果的な学校PR活動を進めた。	<u>学校広報</u> ・塾対象説明会 適宜参加 ・学校説明会 延べ3171名[2711名] ・学校見学会 随時実施 ・授業公開 1学期に1週間実施 2学期に2日間実施 ・文化祭参観者延べ4000名[3981名] ・都立高校第1志望調査（中学校長会進路対策委員会） 1.38倍 [1.75倍] ・推薦募集応募倍率 1.57倍 [2.42倍] ・一次募集応募倍率 1.42倍 [1.20倍]